

令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

事務事業名		街路維持管理費			担当所属	市街地整備課		
基本情報	分野	7生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	1 交通網の充実	会計種別					
	推進施策	1 幹線道路網の整備	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	街路整備事業施行区域内の公共用地、道路						
	意図	都市計画道路の速やかな整備を積極的に推進する。						
	成果	事業区域内の街路整備事業により円滑な交通ネットワークを形成することで、安全面や利便性の向上が期待できる。						
	手段	街路整備事業に係る計画、調査及び設計等を実施する。						
指標	活動指標	指標名	単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		実施事業数	目標値	事業	0	0	1	1
			実績値	事業	0	0	1	-
			目標達成度	%	-	-	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		0	0	0	10,431	68,712	
	事業費		0	0	0	4,252	66,531	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	36,700	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	4,252	29,831	
	人件費合計		0	0	0	6,179	2,181	
	正職員		0	0	0	6,179	2,181	
	正職員以外		0	0	0	0	0	
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.85	0.30		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	避難路や通学路として利用されている都市計画道路の中には、狭隘で幅員が確保できていないものも多く残っており、安全面や利便性において課題がある。							
	現状の周辺環境							
街路整備事業の実施により課題の解決に繋がっているが、狭隘で幅員が確保できていない都市計画道路も依然として残っている。								
今後の予想される周辺環境								
都市計画道路の整備により、安全面や利便性の向上が期待できる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	事業区域内の安全面や利便性の向上に寄与するため、妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	都市計画道路の調査を予定通り実施した。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	都市計画道路の見直しなどにより、整備対象道路の検討は必要である。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A	都市計画道路の整備により安全面や利便性の向上が期待出来るため、着実に事業を進めていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	引き続き、都市計画道路の整備を速やかに進めていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)		事業区域内の安全面や利便性の向上が期待出来る。					

# 令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

<b>事務事業名</b>		街路一般事務費			<b>担当所属</b>	市街地整備課		
<b>基本情報</b>	<b>分野</b>	7生活基盤	<b>事業期間</b>	～				
	<b>基本施策</b>	1 交通網の充実	<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	1 幹線道路網の整備	<b>実施計画</b>		<b>総合戦略</b>			
<b>事業概要</b>	<b>対象</b>	街路事業施工区域内の公共用地と周辺宅地、道路						
	<b>意図</b>	都市計画道路の整備促進を図る。						
	<b>成果</b>	都市計画道路の整備により、交通の円滑化や利便性の向上に寄与することができる。						
	<b>手段</b>	街路事業促進協議会に加盟し、街路事業に係る要望活動や啓蒙活動を通じて都市計画道路の整備促進を図る。						
<b>指標</b>	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>R3年度実績</b>	<b>R4年度実績</b>	<b>R5年度実績</b>	<b>R6年度見込</b>
		実施率	<b>目標値</b>	%	0	0	1	1
			<b>実績値</b>	%	0	0	1	-
			<b>目標達成度</b>	%	-	-	100.0	-
<b>コスト</b>	(単位：千円)		<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 決算</b>	<b>令和4年度 決算</b>	<b>令和5年度 決算</b>	<b>令和6年度 予算</b>	
	トータルコスト		0	0	0	745	745	
	事業費		0	0	0	18	18	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	18	18	
	人件費合計		0	0	0	727	727	
	正職員		0	0	0	727	727	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
<b>人員</b>	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
<b>環境変化等</b>	<b>開始時の周辺環境</b>							
	幅員狭隘な道路が多く安全面での懸念があるため、整備の促進が期待されていた。							
	<b>現状の周辺環境</b>							
<b>評価</b>	<b>今後の予想される周辺環境</b>							
	都市計画道路などの整備により交通の円滑化が進み、利便性が向上する。							
	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>				
妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	街路事業促進協議会を通じた要望活動や啓蒙活動により、都市計画道路の整備が促進されるため、妥当である。				
	2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
	3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A					
有効性	4. 計画の実施状況		A	街路事業促進協議会の加盟により、要望活動や啓蒙活動が実施できた。				
	5. 目標 (活動指標等) の達成度		A					
	6. 上位施策への貢献度		A					
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	従来のやり方に捉われない、より効率的な方法について検討が必要である。				
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
	10. これまでの実施手段		B					
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	街路事業促進協議会を通じた要望活動や啓蒙活動により、都市計画道路の整備が促進されるため、今後も継続していく。						
<b>改革案</b>	<b>今後の実施方向性</b>	維持	都市計画道路の整備促進のため、今後も継続していく。					
	<b>成果方向性</b>	成果維持						
	<b>コスト方向性</b>	コスト維持						
	<b>改革効果 (どのような効果が期待できるか)</b>							

令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

<b>事務事業名</b>		久米中央土地区画整理一般事務費			<b>担当所属</b>	市街地整備課		
基本情報	<b>分野</b>	7生活基盤	<b>事業期間</b>	平成9年度 ~ 令和7年度				
	<b>基本施策</b>	2 暮らしやすい都市環境の整備	<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	5 快適な住環境の整備	<b>実施計画</b>		<b>総合戦略</b>			
事業概要	<b>対象</b>	久米中央土地区画整理事業						
	<b>意図</b>	埋蔵文化財の報告書を作成。						
	<b>成果</b>	埋蔵文化財の報告書作成。						
	<b>手段</b>	R4年11月18日付の換地処分公告により、久米中央土地区画整理事業は完了。令和5年度からは埋蔵文化財の作成費用のみを計上する。これについては報告書作成担当課に全額再配当処理をする。						
指標	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>R3年度実績</b>	<b>R4年度実績</b>	<b>R5年度実績</b>	<b>R6年度見込</b>
		事業進捗率	<b>目標値</b>	%	100	0	0	0
			<b>実績値</b>	%	100	0	0	-
			<b>目標達成度</b>	%	100.0	-	-	-
コスト	(単位：千円)		<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 決算</b>	<b>令和4年度 決算</b>	<b>令和5年度 決算</b>	<b>令和6年度 予算</b>	
	トータルコスト		3,587	5,468	902	1,710	1,813	
	事業費		1,440	1,206	902	983	1,086	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		1,440	1,206	902	983	1,086	
	人件費合計		2,147	4,262	0	727	727	
正職員		2,147	4,262	0	727	727		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.30	0.60	0.00	0.10	0.10		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	<b>開始時の周辺環境</b>							
	利便性は高く立地条件に恵まれている。しかし、公共施設が未整備で不足していることから無秩序な市街化が進行。							
	<b>現状の周辺環境</b>							
幹線を始め、道路、上下水道、公園等の公共施設の整備が整い、良好な住環境の整備が成されている。								
<b>今後の予想される周辺環境</b>								
今後更なる土地活用が進むものと予測される。								
評価	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	法で定められた報告書の作成に係る経費であり、妥当である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	埋蔵文化財関係について担当課が報告書を作成する。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	平成9年からの継続事業であり、地区の公共施設や土地の利用増進等一体的・面的整備として実施手段は最適であった。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	D	事業完了に伴い一般事務費事業の本来業務も実質終了となったが、今後埋蔵文化財の調査報告書の作成費用を計上する。 ※全額埋蔵文化財担当課に再配当処理						
改革案	今後の実施方向性	維持						
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

# 令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

<b>事務事業名</b>		中溝線整備事業費			<b>担当所属</b>	市街地整備課		
基本情報	<b>分野</b>	7生活基盤	<b>事業期間</b>	平成28年度 ~ 令和7年度				
	<b>基本施策</b>	1 交通網の充実	<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	1 幹線道路網の整備	<b>実施計画</b>	該当	<b>総合戦略</b>			
事業概要	<b>対象</b>	都市計画道路中溝線						
	<b>意図</b>	富田西部第一土地区画整理事業区域界から国道2号までの区間において、歩行空間を確保した道路を整備することにより、歩行者の安心かつ安全な空間を形成しつつ、本市の臨海部から国道2号以北の市街地までの道路ネットワークを形成し、交通の円滑化を図る。						
	<b>成果</b>	県道下松新南陽線と国道2号線との南北のアクセス強化が期待できる。						
	<b>手段</b>	●施行場所：大字富田字中溝、日地町及び大字富田字新町 ●工事種別：道路改良及び舗装 L=320m W=16m ●施行期間：平成28年9月9日～令和8年3月31日						
指標	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>R3年度実績</b>	<b>R4年度実績</b>	<b>R5年度実績</b>	<b>R6年度見込</b>
		事業進捗率	<b>目標値</b>	%	49.6	61.7	61.9	66.2
			<b>実績値</b>	%	47.7	57.7	60.2	-
			<b>目標達成度</b>	%	96.2	93.5	97.3	-
コスト	(単位：千円)		<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 決算</b>	<b>令和4年度 決算</b>	<b>令和5年度 決算</b>	<b>令和6年度 予算</b>	
	<b>トータルコスト</b>		274,355	80,583	90,242	43,758	147,801	
	<b>事業費</b>		265,411	64,246	71,867	25,946	132,898	
	<b>特定財源</b>	<b>国庫支出金</b>	128,300	36,030	27,700	12,000	55,500	
		<b>県支出金</b>	0	0	0	0	0	
		<b>地方債</b>	121,000	23,300	36,900	10,800	49,900	
		<b>受益者負担</b>	0	0	0	0	0	
		<b>その他</b>	0	0	0	0	0	
	<b>一般財源</b>		16,111	4,916	7,267	3,146	27,498	
	<b>人件費合計</b>		8,944	16,337	18,375	17,812	14,903	
<b>正職員</b>		8,944	16,337	18,375	17,812	14,903		
<b>正職員以外</b>		0	0	0	0	0		
<b>(事業費集計済分)</b>		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	<b>正職員 (人)</b>	1.25	2.30	2.55	2.45	2.05		
	<b>正職員以外 (人)</b>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	<b>開始時の周辺環境</b>							
	幅員狭隘で、通学路でもありながら歩道の整備が成されておらず、安心・安全面での懸念があり、喫緊の整備が望まれている。							
	<b>現状の周辺環境</b>							
環境変化等	用地買収・移転補償を先行して事業を推進。							
	<b>今後の予想される周辺環境</b>							
	市臨海部と国道2号を結ぶ幹線となり、幅員16mの道路が整備されることにより、沿道土地の高度・有効利用の動きが活発化するものと予測される。							
評価	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	整備により歩行者の安心安全や交通ネットワークの形成による交通の円滑化に寄与するため妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	年度当初に予定した支障物件の移転及び用地買収について実施できた。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	B					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	道路整備の手法としては一般的で妥当である。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		A						
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	当該路線の整備は、富田地区における重要路線であるため、着実に事業を進めていく必要がある。						
改革案	<b>今後の実施方向性</b>	維持	富田地区における重要路線であるため、引き続き、着実に事業を進めていく。					
	<b>成果方向性</b>	成果維持						
	<b>コスト方向性</b>	コスト維持						
	<b>改革効果 (どのような効果が期待できるか)</b>							歩行者の安全面や利便性が向上するとともに、県道下松新南陽線と国道2号線のアクセス強化が期待出来る。

令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

事務事業名		土地区画整理管理事業費			担当所属	市街地整備課		
基本情報	分野	7生活基盤	事業期間	平成24年度 ~				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	5 快適な住環境の整備	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	管理市有地等						
	意図	管理市有地等の適切な整備及び管理を実施し、良好な住環境の保全を図る。						
	成果	H24年度以降は主に熊毛地区のマンホールポンプの清掃業務委託を実施しており、適正な管理ができています。						
	手段	区画整理事業が完了した地区内の管理市有地等について、適切な整備・管理を実施する。						
指標	活動指標	指標名	単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		細事業実施率	目標値	%	1	1	1	1
			実績値	%	1	1	1	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		556	3,373	3,669	5,840	5,489	
	事業費		198	177	787	751	400	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		198	177	787	751	400	
	人件費合計		358	3,196	2,882	5,089	5,089	
	正職員		358	3,196	2,882	5,089	5,089	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.05	0.45	0.40	0.70	0.70		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	熊毛中央地区の土地区画整理事業が完了。整理後引き続き耕作する箇所の用水確保のためマンホールポンプを設置。							
	現状の周辺環境							
環境変化等	現在も耕作を継続中である。							
	今後の予想される周辺環境							
	今後も同様な管理が必要である。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	市管理地・施設の適切な維持管理であり妥当である。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	今年度も計画どおり、適切な管理を実施できた。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	適切な維持管理ができていますため、今後も継続していく。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	施設設備の適切な管理をするため、今後も必要な措置を講じていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	今後も適切な施設設備の管理をしていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

事務事業名		土地区画整理清算事業費			担当所属	市街地整備課		
基本情報	分野	7 生活基盤		事業期間	平成16年度 ~ 令和9年度			
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備		会計種別				
	推進施策	5 快適な住環境の整備		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	新地地区及び久米中央地区清算金徴収対象者 R6年度から富田西部第一地区の清算金の徴収業務を開始予定						
	意図	徴収清算金の完納						
	成果	区画整理事業区域内の換地間の不均衡を是正することができる。						
	手段	新地地区及び久米中央地区の清算金徴収対象者のうち未納者への催告等を行う。R6年度から富田西部第一地区の清算金の徴収業務を開始予定。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		清算金納付率 (久米中央地区)	目標値	%	0	0	100	100
			実績値	%	0	0	78.9	-
			目標達成度	%	-	-	78.9	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		716	1,421	65,658	6,568	133,044	
	事業費		0	0	59,173	25	126,138	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	122,870	
	一般財源		0	0	59,173	25	3,268	
	人件費合計		716	1,421	6,485	6,543	6,906	
正職員		716	1,421	6,485	6,543	6,906		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.10	0.20	0.90	0.90	0.95		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	新地土地区画整理事業が完了し、清算事務が開始される。							
	現状の周辺環境							
現在、新地地区及び久米中央地区の清算事務を実施している。								
今後の予想される周辺環境								
R6年度に富田西部第一地区の清算事務が開始される予定である。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	事業施行者として市が関与することが妥当である。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	R5年度より清算金徴収業務を開始した久米中央地区について、概ね徴収目標が達成できた。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		B				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	土地区画整理事業固有の清算金であるため、統合・代替等はできない。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A		令和5年度から清算金の徴収を開始した久米中央地区について、清算期間内での完了を目指す。					
改革案	今後の実施方向性	維持	今後も遅滞なく清算業務を進めていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
区画整理事業区域内の換地間の不均衡を是正することが出来る。								

# 令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

<b>事務事業名</b>		富田西部第一土地区画整理一般事務費			<b>担当所属</b>	市街地整備課		
<b>基本情報</b>	<b>分野</b>	7 生活基盤	<b>事業期間</b>	平成5年度 ~ 令和6年度				
	<b>基本施策</b>	2 暮らしやすい都市環境の整備	<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	5 快適な住環境の整備	<b>実施計画</b>		<b>総合戦略</b>			
<b>事業概要</b>	<b>対象</b>	西部2号線等の都市計画道路及び区画道路や公園等の公共施設						
	<b>意図</b>	健全で良質な市街地の形成や公共施設の整備改善を行う。						
	<b>成果</b>	健全で災害に強い街づくりに有効であり、家屋の新築や交通の利便性などにより経済的な波及効果も期待できる。						
	<b>手段</b>	富田西部第一土地区画整理事業にかかる審議会、評価委員会の開催及び地区内施設の維持管理を行う。						
<b>指標</b>	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>R3年度実績</b>	<b>R4年度実績</b>	<b>R5年度実績</b>	<b>R6年度見込</b>
		事業進捗率	<b>目標値</b>	%	100	99.3	99.7	100
			<b>実績値</b>	%	98	99	99.31	-
			<b>目標達成度</b>	%	98.0	99.7	99.6	-
<b>コスト</b>	(単位：千円)		<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 決算</b>	<b>令和4年度 決算</b>	<b>令和5年度 決算</b>	<b>令和6年度 予算</b>	
	<b>トータルコスト</b>		2,906	3,843	3,227	3,210	3,380	
	<b>事業費</b>		759	647	1,065	1,029	1,199	
	<b>特定財源</b>	<b>国庫支出金</b>	0	0	0	0	0	
		<b>県支出金</b>	0	0	0	0	0	
		<b>地方債</b>	0	0	0	0	0	
		<b>受益者負担</b>	0	0	0	0	0	
		<b>その他</b>	0	0	0	0	0	
	<b>一般財源</b>		759	647	1,065	1,029	1,199	
	<b>人件費合計</b>		2,147	3,196	2,162	2,181	2,181	
<b>正職員</b>		2,147	3,196	2,162	2,181	2,181		
<b>正職員以外</b>		0	0	0	0	0		
<b>(事業費集計済分)</b>		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
<b>人員</b>	<b>正職員 (人)</b>	0.30	0.45	0.30	0.30	0.30		
	<b>正職員以外 (人)</b>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
<b>環境変化等</b>	<b>開始時の周辺環境</b>							
	既設道路沿いに住宅地としての土地利用が行われているが、中心部は空洞化現象が発生し、さらに営農者の高齢化等により乱開発が危惧されていた。							
	<b>現状の周辺環境</b>							
都市計画道を始めとして、区画道路、上下水道、公園等の公共施設の整備も進み、良好な住環境としての整備がほぼ整っている。								
<b>今後の予想される周辺環境</b>								
更なる土地の有効活用が進むものと予測される。								
<b>評価</b>	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>				
	<b>妥当性</b>	1. 市の関与 (税金支出)		A	公共事業の整備改善を図ると共に、土地の利用増進が進み、賑わいや居住人口の向上に寄与するため妥当である。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A				
	<b>有効性</b>	4. 計画の実施状況		B	令和6年度の事業完了に向けて、概ね計画どおりに実施できた。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		B				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	<b>効率性</b>	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	平成5年からの継続事業であり、地区の公共施設や土地の利用増進等一体的・面的整備として実施手段は最適である。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		A						
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	審議会等の開催及び市管理地の保全にかかる経費削減のため、事業の早期完了に向け重点的に取り組む。						
<b>改革案</b>	<b>今後の実施方向性</b>	維持	引き続き、事業の早期完了に向け、取り組みを進めていく。					
	<b>成果方向性</b>	成果維持						
	<b>コスト方向性</b>	コスト維持						
	<b>改革効果 (どのような効果が期待できるか)</b>							
公共施設の整備改善や宅地の造成が進み、健全な市街地が形成出来る。								

# 令和6年度 事務事業評価表 ( 令和5年度実績 )

<b>事務事業名</b>		富田西部第一土地区画整理事業費			<b>担当所属</b>	市街地整備課			
<b>基本情報</b>	<b>分野</b>	7 生活基盤		<b>事業期間</b>	平成5年度 ~ 令和6年度				
	<b>基本施策</b>	2 暮らしやすい都市環境の整備		<b>会計種別</b>					
	<b>推進施策</b>	5 快適な住環境の整備		<b>実施計画</b>	該当	<b>総合戦略</b>			
<b>事業概要</b>	<b>対象</b>	西部2号線等の都市計画道路及び区画道路や公園等の公共施設							
	<b>意図</b>	健全で良質な市街地の形成や公共施設の整備改善を行う。							
	<b>成果</b>	健全で災害に強い街づくりに有効であり、家屋の新築や交通の利便性などにより経済的な波及効果も期待できる。							
	<b>手段</b>	都市計画道路及び区画道路；施工延長6,334m、幅員6~28m、通路；施工延長557m、幅員2~4m、公園；整備面積7,061.64㎡、水路；施工延長335.1m、宅地；造成面積157,206.34㎡、保留地；1,524.10㎡、事業期間；平成5年9月9日~令和12年3月31日（清算期間5年を含む）							
<b>指標</b>	<b>活動指標</b>	<b>指標名</b>		<b>単位</b>	<b>R3年度実績</b>	<b>R4年度実績</b>	<b>R5年度実績</b>	<b>R6年度見込</b>	
		事業進捗率		目標値	%	100	99.3	99.7	100
				実績値	%	98	99	99.31	-
				目標達成度	%	98.0	99.7	99.6	-
<b>コスト</b>	(単位：千円)		<b>令和2年度 決算</b>	<b>令和3年度 決算</b>	<b>令和4年度 決算</b>	<b>令和5年度 決算</b>	<b>令和6年度 予算</b>		
	<b>トータルコスト</b>		47,936	19,781	137,032	74,624	88,000		
	<b>事業費</b>		23,251	4,154	111,090	41,546	60,374		
	<b>特定財源</b>	<b>国庫支出金</b>	0	0	0	0	0		
		<b>県支出金</b>	0	0	0	0	0		
		<b>地方債</b>	11,900	0	50,800	300	0		
		<b>受益者負担</b>	0	0	0	0	0		
		<b>その他</b>	0	0	0	0	0		
	<b>一般財源</b>		11,351	4,154	60,290	41,246	60,374		
	<b>人件費合計</b>		24,685	15,627	25,942	33,078	27,626		
<b>正職員</b>		24,685	15,627	25,942	33,078	27,626			
<b>正職員以外</b>		0	0	0	0	0			
<b>(事業費集計済分)</b>		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
<b>人員</b>	<b>正職員 (人)</b>	3.45	2.20	3.60	4.55	3.80			
	<b>正職員以外 (人)</b>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
<b>環境変化等</b>	<b>開始時の周辺環境</b>								
	既設道路沿いに住宅地としての土地利用が行われているが、中心部は空洞化現象が発生し、さらに営農者の高齢化等により乱開発が危惧されていた。								
	<b>現状の周辺環境</b>								
<b>評価</b>	<b>評価項目</b>		<b>評価</b>	<b>評価の理由</b>					
	<b>妥当性</b>	1. 市の関与（税金支出）	A	公共施設の整備改善を図るとともに、土地の利用増進が進み、賑わいや居住人口の向上に寄与するため、妥当である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
<b>有効性</b>	4. 計画の実施状況		B	令和6年度の事業完了に向けて、概ね計画どおりに実施できた。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		B						
	6. 上位施策への貢献度		A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
<b>効率性</b>	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	平成5年からの継続事業であり、地区の公共施設や土地の利用増進等一体的・面的整備として実施手段は最適である。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B						
	10. これまでの実施手段		A						
<b>総合評価</b>	<b>A</b>		早期完了に向け、関係権利者・関係機関との合意形成及び協議を積極的に進めて行く。						
<b>改革案</b>	<b>今後の実施方向性</b>	維持	引き続き、事業の早期完了に向け、取組みを進めていく。						
	<b>成果方向性</b>	成果維持							
	<b>コスト方向性</b>	コスト維持							
	<b>改革効果（どのような効果が期待できるか）</b>								
公共施設の整備改善や宅地の造成が進み、健全な市街地が形成出来る。									